

令和 7 年度

# 「運営に関する計画」

## 【学校評価】

(自己評価書および届出事項)

大阪市立高倉中学校

令和 7 年 4 月

## 1 学校運営の中期目標

### 現状と課題

平成28年度より、本校では教育課程の編成として、国語科・数学科・英語科において、文部科学省の標準時数より授業時数をさらに拡充し、学力向上に向けて取り組んでおり、その成果は徐々にあらわれている。

学力向上において、国語・数学・英語科では習熟度別少人数授業を推奨し、学力向上推進事業に取り組み、授業力向上を図ってきた。令和5年度からは「全国学力・学習状況調査」の結果で国語・数学・英語において平均正答率が全国平均を上回っている。また、「中学生チャレンジテスト」でも全学年、ほぼ全教科において大阪府平均を上回る結果となっている。

さらに、図書館利用の拡充、図書の充実を通し、本や資料、新聞等の文章を自主的に選んで読む習慣をつけさせていくため、図書館補助員制度も活用し、図書館の整備をすすめ、生徒の図書館の活用を推進する。また、全教職員が今後も授業改善・教材研究に努め、学力向上に向けて取り組んでいくよう、あわせておこなう。

本校の大きな課題である家庭学習習慣の確立に向け、生徒の意識高揚と意義の確認及び保護者の意識啓発に努め、両者一体の指導を推進し、学力向上に向けて取り組んでいく。

また、家庭で学校の宿題をする習慣が定着するために、各教科でさらに家庭学習用の課題を精選したり、一人一台学習者用端末の活用を推進し、更に放課後の図書館開館や学習会など学校元気アップコーディネーターと連携を図り、家庭学習時間の増加に努める。

### 中期目標

#### 【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。
- 毎年度末の校内調査において、改善傾向がみられた不登校生徒の割合を、毎年増加させる。

#### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の「全国学力・学習状況調査」において、全国平均を上回る。
- 令和7年度の校内調査において、「私は毎日の家庭学習が習慣になっている」の項目に対して、肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。
- 令和7年度の「全国体力・運動能力・運動習慣の調査」の体力合計点の対全国比の割合を令和3年度より0.03ポイント向上させる。（令和3年度0.99）
- 令和7年度の「全国体力・運動能力・運動習慣の調査」の「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える生徒の割合を55%以上にする。（令和3年度53.9%）

### 【学びを支える教育環境の充実】

- 令和 7 年度末の校内調査で、各学年、各教科領域において ICT 機器を活用した年間の授業の割合を 25 %以上にする。(令和 3 年度 20 %)
- 学校閉庁日については、夏季休業期間中については 3 日以上、冬季休業期間中については 2 日以上設定する。
- 保護者アンケートにおける「学校に関する情報が得やすい」と答える保護者の割合を、令和 4 年度から 4 年間、80 %以上にする。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

### 【安全・安心な教育の推進】

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。（昨年度83%）
- 年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を91%以上にする。（昨年度91%）
- 年度末の校内調査における、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。（昨年度32%）

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を60%以上にする。（昨年度58%）
- 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.2ポイント向上させる。
- 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を58%以上にする。（昨年度58%）
- 全国体力・運動能力、運動習慣の調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より0.01ポイント向上させる。（昨年度1.01）

### 【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕
- 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を95%以上にする。

### 3 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立高倉中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【安全・安心な教育の推進】</b> ○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。（昨年度83%） ○年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を91%以上にする。（昨年度91%） ○年度末の校内調査における、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。（昨年度32%）	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<b>取組内容①【基本的な方向1：安全・安心な教育環境の実現】＜生活指導部＞</b> ○毎月の「いじめアンケート」、年2回の教育相談を行い、いじめや問題行動の早期発見や学校生活、友人関係について把握し、生徒が安全・安心な学校生活を送ることができるよう努める。	
<b>指標</b> ●生徒アンケート「先生はいろいろな相談にのってくれている」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を88%（昨年度90%）以上にする。 ●生徒アンケート「学校では命の大切さや仲間の大切さを学ぶ機会が多い」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を90%（昨年度94%）以上にする。	
<b>取組内容②【基本的な方向1：安全・安心な教育環境の実現】＜生活指導部＞</b> ○チャイム着席や気持ちの良い挨拶などの基本的生活習慣の確立と、みだしなみや学校のきまりを守る規範意識を育成し、秩序ある集団生活をおくれるようにする。	
<b>指標</b> ●生徒の規範意識の高さを継続させて、予鈴遅刻者を全体の1%以下にするとともに、予鈴では全ての準備を終えた状態で着席し、朝から落ち着いた学習環境を整えられるようにする。 ●校則の変更に伴い、新ルールへの理解を深め順応するために、年1回は各学年で生徒向け校則講習会や身だしなみ点検を行う。そして生徒アンケート「わたしは学校の決まり・規則（服装・時間など）を守っている」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を90%（昨年度98.1%）以上にする。 ●生徒指導の在り方について共通理解を図るため、校内研修会を年1回実施して指導体制を整える。また、問題行動発生時における組織的対応ができるよう、情報共有の会議を月1回以上実施して情報交換を密にする。	

<p><b>取組内容③【基本的な方向１：安全・安心な教育環境の実現】＜生活指導部＞</b></p> <p>○不登校生徒や保護者、それぞれの状況に応じた関係諸機関と連携を取り、状況改善に向け組織的に取り組む。</p> <hr/> <p><b>指標</b></p> <p>●不登校生徒の割合を前年度より減少させ、大阪市平均を下回る。</p>	
<p><b>取組内容④【基本的な方向２：豊かな心の育成】＜教務部(進路)＞</b></p> <p>○３年間を見通した体系的・系統的なキャリア教育を推進する。体験的活動や進路指導等、生徒の発達段階に応じた指導内容を充実させ、地域資源や外部の人材も活用し、多様な人々から学ぶ機会を設け、生徒一人一人の進路実現につなげる。</p> <hr/> <p><b>指標</b></p> <p>●各学年において、キャリア教育を５時間以上実施する。</p> <p>●生徒アンケート「進路の悩みは先生と相談する」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を７５％以上にする。</p> <p>●保護者アンケート「進路は先生と相談したい」に対して、肯定的に回答する保護者の割合を７５％以上にする。</p>	
<p><b>取組内容⑤【基本的な方向２：豊かな心の育成】＜道徳G＞</b></p> <p>○道徳教育の要として「特別の教科・道徳」を実践することを通して、互いの違いを認め助け合う心の育成と、生徒が自分の内面を見つめるきっかけを作り、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。</p> <hr/> <p><b>指標</b></p> <p>●校内研修期間に道徳授業の相互参観をおこない、のべ６人参加する。</p> <p>●学校評価アンケートにおける「道徳や総合的な学習の時間は、自分自身の心の成長に役立っている。」の項目で「①そう思う」「②まあまあそう思う」の回答を８５％以上にする。</p>	
<p><b>取組内容⑥【基本的な方向２：豊かな心の育成】＜人権総合G＞</b></p> <p>○３年間を通して、４つの大きなテーマ（集団育成、障がい理解、反戦平和、多様性）の人権教育に取り組み、正しい知識と判断力を養い、互いを尊重する心を育てる。</p> <p>○思春期の心と体の変化、交際、性情報、性感染症などについて、３年間で段階を踏んで指導し、命の大切さに気付かせていく。</p> <hr/> <p><b>指標</b></p> <p>●各学年、人権教育について上記した４つのテーマのうち、２つ以上を実践する。</p> <p>●各学年、性教育について年間２時間は実践する。</p> <p>●生徒アンケート「道徳や総合的な学習の時間は、自分自身の心の成長に役立っている」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を９０％以上にする。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>今後の改善点</p>	

大阪市立高倉中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</b> ○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を60%以上にする。（昨年度58%） ○中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.2ポイント向上させる。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<b>取組内容①【基本的な方向4：誰一人取り残さない学力の向上】＜教務部＞</b> ○授業や課題解決の活動の中で、資料を読解してまとめたり、対話的な活動を通じ、自分の考えを広めたり、深めたりする機会を積極的に設定する。 ○与えられたテーマについて調べまとめたり、学習したことを協同的活動によりまとめたものをプレゼンテーションするスキルを養う。	
<b>指標</b> ●生徒アンケート「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりできている」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。 ●学級や学年で、年1回はプレゼンテーションをする機会を設定する。	
<b>取組内容②【基本的な方向4：誰一人取り残さない学力の向上】＜教務部＞</b> ○日々の課題、テスト前勉強、また一人一台学習者用端末を用いた課題を活用し、生徒に達成感をもたせながら、家庭学習、自主学習習慣の獲得に努める。	
<b>指標</b> ●定期テスト1週間前より、元気アップと連携して放課後自主学習会を開催し、主体的に自主学習する機会を後押しする。 ●生徒アンケート「わたしは毎日の家庭学習が習慣になっている」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を65%以上にする。	
<b>取組内容③【基本的な方向4：誰一人取り残さない学力の向上】＜学力向上G＞</b> ○CEFR A1レベル(英検3級)相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を高めるため、また普段の英語学習に生かす機会として、英語検定の校内実施に取り組む。	
<b>指標</b> ●学校を準会場として、英検を2学期に実施し、受験者数を全校生徒の14%以上にする。 ●夏休みに英検の自主学習会を開催し、参加合計人数を60人以上にする。	



<p><b>取組内容④【基本的な方向４：誰一人取り残さない学力の向上】＜小中一貫 G＞</b></p> <p>○小中連携を密にし、情報共有をしっかりと行うとともに、小中の円滑な接続のため、校下小学校６年生を対象に「授業体験」「部活動体験」を実施する。</p> <hr/> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●小中連携者会議を学期に１回以上実施する。</li> <li>●小学６年生を対象に「授業体験」「部活動体験」を実施し、児童への事後アンケート「中学校に入学するのが楽しみだ」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を９０％以上にする。</li> </ul>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
今後の改善点	

大阪市立高倉中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</b> ○年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を58%以上にする。 （昨年度58%） ○全国体力・運動能力、運動習慣の調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より0.01ポイント向上させる。（昨年度1.01）	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<b>取組内容①【基本的な方向5：健やかな体の育成】＜保健体育科＞</b> ○授業、学校行事、球技大会や部活動など、教育活動全般を通して、運動やスポーツのすばらしさを知り、関心を高めるとともに、体力の向上へつながるように努める。	
<b>指標</b> ●各学年、年1回はスポーツ大会（球技大会等）を行う。 ●授業アンケートをとり、「体育の授業は楽しい」と肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。	
<b>取組内容②【基本的な方向5：健やかな体の育成】＜健康教育部＞</b> ○「食育つうしん」「保健だより」等を発行し、活用することで、健やかな体づくりに向けた「食」と「運動」、「健康」への関心を高める。	
<b>指標</b> ●「食育つうしん」「保健だより」を年間10号発行する。また、校内に「食」や「運動」「健康」に関する掲示物を作成・掲示する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
今後の改善点	

大阪市立高倉中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【学びを支える教育環境の充実】</b> ○授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕 ○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を95%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<b>取組内容①【基本的な方向6：教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】&lt;ICT G&gt;</b> ○ICT環境の中で、生徒が互いに教え合い学び合う「協働学習」や、生徒の思考力・判断力・表現力につながる「ICT教育の充実」を図ることで、変化する社会を生き抜くために必要な資質・能力を育成する。	
<b>指標</b> ●年度末のアンケートにて、「情報モラルを理解し、適切に活用できますか」に対して肯定的な回答が70%を上回る。 ●授業や放課後にパソコンやタブレットを活用した調べ学習を実施し、チャレンジテストの「わからないことや知りたいことがあったとき、図書館資料やインターネットなどで調べている」の項目で肯定的な回答が大阪府平均を上回る。	
<b>取組内容②【基本的な方向7：人材の確保・育成としなやかな組織づくり】&lt;教務部(研修)&gt;</b> ○研修計画を作成し、校内外研修への参加体制づくりと指導力向上を図る。	
<b>指標</b> ●年間3回程度、全教職員対象の全体研修会を実施する。 ●年間1回以上、全教員が研究授業・授業参観・研究協議を実施する。	
<b>取組内容③【基本的な方向8：生涯学習の支援】&lt;図書G&gt;</b> ○読書活動の啓発をとおして、本・新聞等、目的に応じた資料を自主的に選んで読み取り、教養を高め、調査・レクリエーションの一助となり、学校の構成員の知る自由を拡大する。	
<b>指標</b> ●年間を通して、読書推進活動を展開する。 ●生徒アンケート「学校や家庭で継続的に読書している」に対する肯定的回答の割合を60%以上にする。	

<b>取組内容④【基本的な方向 7：人材の確保・育成としなやかな組織づくり】＜管理職＞</b> ○教職員を取り巻く状況の改善に努め、仕事の分散、休暇取得の促進などにより、教職員が心身共に健やかな状態で、業務に当たれるよう働き方改革を進める。	
<b>指標</b> ●月 1 回、全教職員が定時退勤する「No 残業 DAY」を設定する。 ●教務部と連携し、始・終業式の弾力的運用を行うとともに、時差勤務を行う教職員もできるだけ定時退勤できるよう、時程の弾力運用を行う。 ●学校閉庁日を夏季休業中に 3 日以上、冬季休業中に 2 日以上設定する。	
<b>取組内容⑤【基本的な方向 9：家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】＜管理職＞</b> ○月 1 回学校通信「たかちゅう」の発行をする。また、ホームページの定期的な更新を実施し、家庭・地域に向けた情報発信を推進していく	
<b>指標</b> ●保護者アンケート「学校に関する情報が得やすい」に対して、肯定的に回答する保護者の割合を 85 %以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
今後の改善点	